

**製品名: CENP-A ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21102**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.2mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:16kD;Observed MW:16kD

**抗原情報**

遺伝子名	CENPA
別名	CENPA;Histone H3-like centromeric protein A;Centromere autoantigen A;Centromere protein A;CENP-A
遺伝子 ID	1058.0
SwissProt ID	P49450
免疫原	ヒト CENPA の合成ペプチド

**背景**

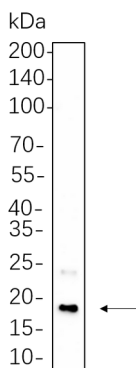
細胞局在: 核。染色体、セントロメア、動原体。染色体、セントロメア。セントロメアの動原体ドメインにのみ局在する。内側の動

原体プレートにおいて、狭窄部の長さの3分の2に及ぶコンパクトなドメインを占めるが、狭窄部の幅と高さの3分の1しか占めていない (PubMed:19114591)。有糸分裂初期における Ser-68 のリン酸化により、クロマチンとセントロメアとの結合が失われ、核内に分散して配置される (PubMed:25556658)。セントロメアは、染色体の有糸分裂挙動を規定する分化した染色体ドメインである。この遺伝子は、セントロメアへの標的化に必要なヒストン H3 関連ヒストンフォールドドメインを含むセントロメアタンパク質をコードしている。セントロメアタンパク質 A は、ヌクレオソーム粒子の(H3-H4)<sub>2</sub> 四量体コアにおいて、従来のヒストン H3 の1つまたは2つのコピーを置換する、改変ヌクレオソームまたはヌクレオソーム様構造の構成要素であると提唱されている。このタンパク質は、ヒストン H3 ファミリーに属する複製非依存性ヒストンである。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2015 年 11 月]

## 研究分野

-

## 画像データ



K562 細胞ライセートを 4~20% SDS-PAGE で分離し、膜を CENP-A ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でプロットした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。